

59

物理全志		
420-72	明治9(1876)	宇田川準一訳・編
カッテンボス、ガノーの書を基にして翻訳・編集した物理教科書。		

- ◆ 本書の凡例に「此編ハ千八百七十三年鑄版ノ米人カッテンボス氏ノナチュラル・フィロソフィー並ニ千八百七十二年鑄版ノ佛人ガノー氏ノナチュラル・フィロソフィーヲ折衷シテ譯述セリ」とある。このことから、本書の原本は、カッテンボス著“Natural Philosophy”と、ガノーの著作であるいわゆる「大ガノー」又は「小ガノー」の英訳版であると考えられる。

本書は、当時の物理書のうち、内容が最も詳しくまた分量も多い。全10巻10冊。各巻の内容は次の通りである。

巻之一：総論・物体・物性・力学の基礎事項 巻之二：運動の力学・振子・重心
 巻之三：材料強弱・単一器械 巻之四：水の力学 巻之五：空気の諸性質・音
 巻之六：熱現象・熱の本質 巻之七：光学・光学器械 巻之八：磁気および電気
 巻之九：液体電池・電気器械・電磁現象 巻之十：太陽系を主とした天文学

訳者の宇田川準一(1848-1913)は、幕末の最も優れた科学者の一人である宇田川榕庵(1798-1846)の孫である。宇田川準一は東京師範学校の物理の教師を務め、その在職時に本書の著述を手がけた。

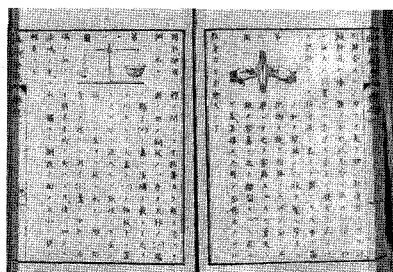
- ◆ 当館所蔵本は「静岡県浜松中学校蔵書」「静岡県立掛川中学校印」「静岡県師範浜松支校」の印記をもつ。

60

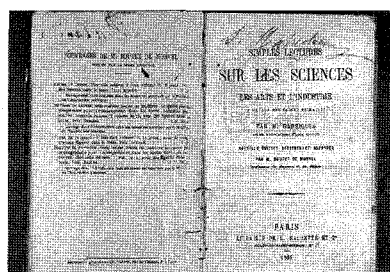
Simples Lectures sur les Sciences, les Arts et l'industrie Alusage des Écoles Primaires		
A F -87	1866	M.Garrigues著
フランスの自然科学入門書。明治初期の代表的な理科教科書である『牙氏初学須知』の原本になった。		

- ◆ 書名の邦訳は「初等学校のためのやさしい技術科学と工業の講義」である。『牙氏初学須知』の巻頭には本書の序文(1872)の邦訳がある。そこには「我が輩既ニ此ノ書ヲ世ニ公布スレバ…(略)…小学校ノ生徒ハ勿論、教官並ニ生徒ノ父母ニ益アルコトヲ保証ス」とあり、本書が、主として小学生を対象として書かれた教科書であることがわかる。全11章からなり、その内容は、天文、地質、生物、物理、化学、工学、農学など、ほぼ自然科学全体にわたっている。
- ◆ 当館所蔵本は「静岡学校」の印記をもつ。

<参考資料> 『日本教科書大系 近代編』第21巻 (375.9-118)



59 物理全志



60 初等学校のためのやさしい技術科学と工業の講義